

ハザードマップをメタバーズで再現

現地のリスクを3Dビジュアルで具体的にイメージ ——生物地球学科の佐藤教授が開発 26日に記者説明会

2014年8月、77人が犠牲になった広島土砂災害から10年が経過しました。広島県では新たな災害に備え、全国に先駆けて3次元地形図やAR技術を用いたハザードマップを公開しています。しかし、土砂災害の被災時における具体的な深さに関しては、十分に正確な表現がされていないことが課題として残っていました。これにより、現地のリスクの大きさを正確に把握することが困難でした。

生物地球学科 地球・災害科学コースの佐藤丈晴教授は、この課題に対処するため、ハザードマップの範囲を規定する基礎調査データに基づき、メタバーズを活用して現地を可能な限り再現しました。具体的には、土石流の深さを現地の景観モデルに重ね合わせることで、歩行者の目線で仮想空間を構築しました。この仮想空間は、VRヘッドセットを用いることで没入感のある視聴が可能となり、PCモニターによる視聴でも高い臨場感を提供します。

さらに、家屋に到達している土石流の高さや、現在地から確認したい地物までの距離を計測することも可能で、現地のリスクをより具体的に理解し、適切な防災対策を講じることができるようになります。

報道機関対象に新システムの説明会を以下の要領で開催しますので、ご参集いただければと思います。

日時：8月26日(月) 13時～

会場：岡山理科大学 A1号館1階・プレゼンテーションルーム

(正門ロータリーをに入って芝生広場奥の11階建ての校舎1階)

岡山市北区理大町1-1

(関係資料を添付、当日は動画も提供させていただきます)

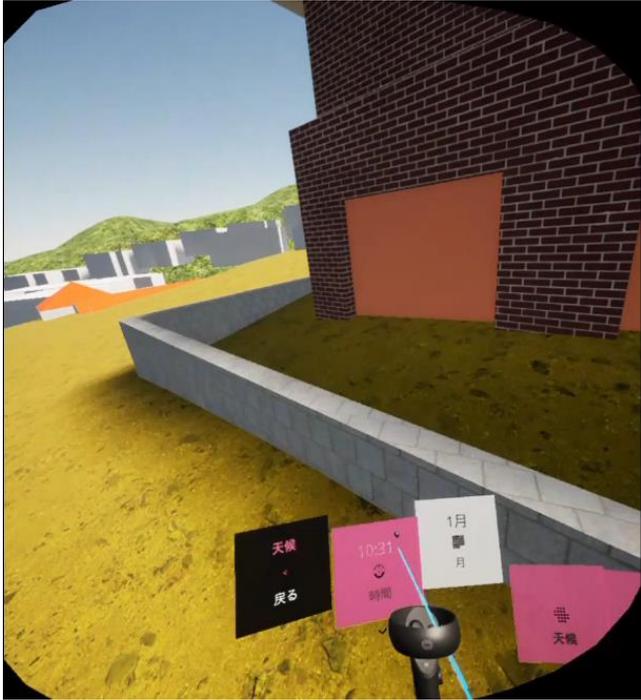
【お問い合わせ先】

(研究内容)

生物地球学科 佐藤教授 連絡先：086-256-9592 e-mail：sato@ous.ac.jp

(報道)

企画部企画広報課 連絡先：086-256-8508 e-mail：kikaku-koho@ous.ac.jp



メタバース構築
デジタルと実世界に
またがる体験
VRヘッドセットで
地域住民が自宅付近
の土砂堆積深さを
確認できる



イエロー・レッド境界と深さの可視化



避難ルートを提示し誘導



3